



## 白井美穂

### 揺れよ、チャリオット



©Mio Shirai

2026年2月10日(火) - 4月4日(土)

※2月28日(土)17:00-19:00にオープニングレセプションを行います。

Yumiko Chiba Associates

東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日

このたび、Yumiko Chiba Associates では、白井美穂の個展を開催します。白井は、1980年代末から、インスタレーション、立体、テキスタイル、ビデオなど、複数のジャンルを横断する多彩な活動を展開してきました。

2000年代に入ってから絵画制作を本格化し、生命や宇宙の循環を示唆する抽象的な形態と象徴的なイメージが交錯する作品を手がけています。2024年には、府中市美術館で個展「森の空き地」が開催され、作家の持続的な思考と幅広い表現の可能性が検証されました。

この度の個展では、幾何学線や放物線、螺旋などを用いたものなど、白井が近年精力的に制作する絵画作品を展覧します。本展のタイトルである「揺れよ、チャリオット」は、古い黒人霊歌「Swing Low, Sweet Chariot」から取られました。この歌の冒頭では、「そっと揺れて、やさしい馬車よ、私を天の住まいに連れて行くため、迎えに来て」と歌われます。Chariotとは馬車のことであり、それは人を別の場所に運ぶ乗り物としての象徴的な意味もっています。

「絵画や彫刻を今此処とは異なる、別の世界への出口として制作している」と語る白井にとって、絵画や彫刻はつねに、別の時空への開口部や避難口であり、同時に、この世界に穿たれた別の場所そのものとして現れるものです。絵画によって世界の構造を解きほぐし、そこに新たな運動や回路を出現させる作家の新作をぜひご覧ください。



## アーティストステートメント

私は絵画や彫刻を今此処とは異なる、別の世界への出口として制作しています。現実の物質を扱いながら、その組成や形態、構造とそこに纏わる文脈を解析しつつ、それらを組み替え再編成することで因習的な規範を逸脱しうる世界の構築を試みています。

近年取り組んでいる幾何形態や流動的な線、放物線や螺旋を用いた絵画では、線やストロークによって内側に巻き込む動きと外側に放出される動きを併置し、色彩によるボリュームを伴って空間が収縮と膨張とを繰り返すような視覚表現の追求をしています。

本展のタイトルは古い黒人霊歌“Swing Low, Sweet Chariot”からの引用で、元々は紀元前9世紀のエリヤおよび紀元前6世紀のエゼキエルといった預言者が幻視した、救済と故郷への帰還の象徴である荷車/chariotについて歌われていました。公民権運動においては自由を求める闘いの曲として、その後も20世紀の間に様々に変奏されてきました。宙を右にも左にも前にも後ろにも自在に動く4つの車輪をつけたこのchariotは1976年にはSFと組み合わせた神話となり、Pファンクのパーラメント Parliament による Mothership Connection のステージでは瀕死の世界を救う UFO として召喚されました。

本展の絵画にあらわれる菱形は、その頂点が上下を指す2つの三角形が結合した、上も下もない世界を示唆し、同時に光の炸裂するレモン型手榴弾の様でもあります。正方形の新作はキャンバスの四辺が内側に折り畳まれた構造を備え、宙をあらゆる方向に自在に動く chariot の動きを内包しつつ、どこか別の世界への避難口であろうとしています。

白井美穂

### 【トークイベント】

白井美穂 x 佐原しおり(東京国立近代美術館 研究員)

2026年3月28日(土)

\*申し込み詳細等は改めてご案内いたします。

### ■関連情報

#### [グループ展]

「コレクションによる小企画 没後30年 榎倉康二」

日時：2025年11月5日(水) - 2026年2月8日(日)

会場：東京国立近代美術館 2F ギャラリー4 (東京)

### ■アーティストプロフィール■

白井美穂 Mio Shirai

1962	京都生まれ
1986	東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1988	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了
1993	アジアン・カルチュラル・カウンシル ACC 日米芸術家交換プログラム助成
1996	公益財団法人ポーラ美術振興財団 在外研修員
1993-2006	ニューヨークを拠点に、2007より東京を拠点に活動

#### [主な個展]

1987	「白井美穂展」かねこアートG1 東京
1988	「白井美穂展」コバヤシ画廊 東京
	「白井美穂展」村松画廊 東京
1989	「MIO SHIRAI」ヒルサイドギャラリー 東京
	「白井美穂展」京二画廊 東京
1990	「白井美穂展」HALSギャラリー 東京
	「白井美穂展」ヒルサイドギャラリー 東京
1991	「白井美穂」コンセプトスペース 群馬県渋川市
	「白井美穂展」ヒルサイドギャラリー 東京
1992	「白井美穂」SOKO東京画廊 東京
1993	「白井美穂 視覚と隠喩」イトーキ銀座ニューオフィスギャラリー 東京
	「白井美穂展」ヒルサイドギャラリー 東京
1994	「Mio Shirai: ill seen ill said」East West Cultural Studies ニューヨーク
	「白井美穂展」メモリーズギャラリー 名古屋
1996	「Mio Shirai」Red Mill Gallery ヴァーモント州ジョンソン



- 「One Day One Show」 ギャラリー360° 東京  
「Texture Girl」 Modern Culture ニューヨーク  
1998 「白井美穂展 Endless Shuffle」 ヒルサイドギャラリー 東京  
2003 「白井美穂展 Joie de Vivre」 ヒルサイドギャラリー 東京  
2005 「Mio Shirai / New Kingdoms」 Chashama 217 Gallery ニューヨーク  
2006 「白井美穂展 Finding Shangri-La」 アートフロントギャラリー 東京  
2008 「Mio Shirai Forever Afternoon」 Northern Gallery or Contemporary Art サンダーランド イギリス  
2009 「Unknown Binding」 「Forever Afternoon」 BankART NYK 横浜  
2011 「Magic Carpet Ride」 ギャラリー古今 東京  
2013 「Roadshow」 void+ 東京  
「春のめちゃく茶会」 TRAUMARIS 東京  
2016 「Book of Silence」 nap gallery 東京  
2017 「Cosmicomics」 Time & Style Midtown 東京  
2018 「Time is Vertical」 nap gallery 東京  
2020 「メテオール Météore -2 / Conversion」 gallery 21yo-j 東京  
2023-24 「森の空き地」 府中市美術館 東京  
2024 「千葉市美術館コレクション選 特集 白井美穂」 千葉市美術館 千葉

**[主なグループ展]**

- 1986 「フジヤマゲイシャ」 京都芸術大学ギャラリー 京都 大光電気ライティング・ラボ 東京  
1987 「フジヤマゲイシャ」 大光電気ライティング・ラボ 東京 大阪国際交流センター 大阪  
1988 「Open the Gate」 東京藝術大学美術学部陳列館 正木記念館中庭 東京  
1989 「Art Today 1989-主題のない四楽章」 軽井沢高輪美術館 長野  
「白州・夏・フェスティバル '89」 山梨県白州町  
1990 「Crossing '90」 かねこ・あーとGI 東京  
「ヒルサイド・ドキュメンツ」 ヒルサイドギャラリー 東京  
「モダニズムの三角測量」 ギャラリー古川 東京  
「架想モニュメント'90」 かねこ・あーとGI 東京  
「渋谷現代彫刻トリエンナーレ '90」 コンセプトスペース 群馬県渋川市  
「第26回今日の作家展'90〈トリアス〉」 横浜市民ギャラリー 横浜  
1991 「Take Art Collection 1991」 スパイラルガーデン 東京  
「ザ・サイレント・パッション 日本の女性アーティストたち」 栃木県立美術館  
「ドローイング倉庫展」 ヒルサイドギャラリー 東京  
「三人展」 東京画廊 東京  
「第7回 インド・トリエンナーレ」 The Lalit Kala Academy ニューデリー  
「白州・夏・フェスティバル ドローイング展」 ギャラリー古川 東京  
「未来のクロニクル」 メモリーズギャラリー 名古屋  
1992 「Jennifer Bolande, Shilvia Gertsch, Marie - Theres Huber, Pipilotti Rist, Mio Shirai」 Shedhalle チューリッヒ  
「ハルキコレクション」 SOKO東京画廊 東京  
「第1回 habitart メーキング・ルームー素材としての空間一展」 パシフィコ横浜  
1993 「00コラボレーション 詩と美術」 佐賀町エキジビットスペース 東京  
「Bolande, Dopitova, Rist, Shirai」 ブラハ市立美術館 チェコ  
「Exchange 2」 Shedhalle チューリッヒ  
「Nomad」 Temporary Kunsthalle Munich ミュンヘン  
「アーティストの金細工: 日本とアメリカ」 アレッツォ市 アーティスツ・ジュエリー展 サン・フランチェスコ大聖堂 アレッツォ  
イタリア  
「ドローイング展」 ヒルサイドギャラリー 東京  
1994 「Let the Artists Live!」 Exit Art and the First World ニューヨーク  
「Watched While Sleeping」 ヒルサイドギャラリー 東京  
「ダブルブッキング」 ギャラリー360°東京  
「ファーレ立川アート計画」 東京都立川市  
「故郷の芸術 Kunst Heimat Kunst」 Kunstlerhaus Graz グラーツ オーストリア  
1995 「ふくい国際ビデオ・ビエンナーレ」 福井  
「第6回小彫刻トリエンナーレ1995: 西欧—東アジア」 ジュドヴェストLBフォーラム シュトゥットガルト  
1996 「Sosie」 佐賀町エキジビットスペース 東京  
「さよなら同潤会代官山アパート展『再生と記憶』」 同潤会代官山アパート 東京  
「アトピック・サイト On Camp / Off Base」 東京ビッグサイト 東京  
「レクイエム -榎倉康と33人の作家-」 斉藤記念川口現代美術館 埼玉県川口市  
「女性の肖像 日本現代美術の顔」 渋谷区立松濤美術館 東京  
「美術の内がわ・外がわ 何故、眼差しは変わったか」 板橋区立美術館 東京  
1997 「Travel Sized」 City Collage New York ニューヨーク  
1998 「Global Housewarming」 The First floor Gallery メルボルン



- 2000 「3 + 1: Oki, Shirai, Matsuyama and Takezaki」 オオタファインアーツ 東京  
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000」 松代町 新潟
- 2001 「The Art of Collecting」 Flint Institute of Art ミシガン州 フリント
- 2003 「Group Exhibition」 Jack the Pelican Presents ニューヨーク  
「Night of 1000 Drawings」 Artists Space ニューヨーク
- 2004 「Art / Room」 ヒルサイドギャラリー 東京
- 2005 「Chashama Exhibition: The Artist in Residence of 40 Worth Street」 Chashama ニューヨーク
- 2006 「Le Salon Violet」 ル・サロン・ヴィオレ ニューヨーク  
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006」 松代町 新潟
- 2007 「ヒルサイドギャラリー ～新たな出発にむけて」 ヒルサイドフォーラム 東京  
「食と現代美術 Part3: Restaurant 1929」 BankART 1929 横浜  
「劉旭光による『榎倉康二ドキュメンタリー』の為に集められた小品展」 Space 23°C 東京
- 2008 「BankART Life 2 」 BankART NYK 横浜  
「アーティスト・ファイル2008—現代の作家たち」 国立新美術館 東京  
「食と現代美術 Part4」 BankART1929 横浜
- 2009 「explosion shirt」 explosion Tokyo 東京  
「ベルリン+東京 コミュニケーションアート展」 Higure 17-18 cas 東京  
「桐山の家」 BankART 妻有 越後妻有アートトリエンナーレ 新潟  
「第一回 所沢ビエンナーレ美術展 引込線」 西武鉄道旧所沢車両工場 埼玉
- 2010 「To - Be 東京+ベルリン コミュニケーションアート」 Freies Museum Berlin ベルリン  
「シティ・ビーツ+ライブ・エクスプロージョン」 BankART NYK Hall 横浜  
「災厄の星 Unstern! / Sinistre」 MUSEE F+表参道画廊 東京  
「食と現代美術 part6: full course フルコース」 本町実験ギャラリー 横浜
- 2011 「Teenage Spirit 十代の精神」 explosion tokyo viewing room 東京  
「Unknown」 アユミギャラリー 東京  
「横浜トリエンナーレ特別連携プログラム 新・港村—小さな未来都市」 新港ピア 横浜  
「山口啓介 白井美穂 二人展 星のこども」 KANEKO ART TOKYO 東京  
「鷹見明彦追悼展」 表参道画廊 東京
- 2012 「Progressive Maria 進行形のマリア」 早稲田スコットホールギャラリー 東京  
「Unknown Life」 アユミギャラリー 東京  
「Unknown Voice」 遊工房アーツスペース 東京  
「第11回まつしる現代美術フェスティバル」 松代藩文武学校 長野
- 2013 「Unknown History」 高橋ビルディング 神楽坂 東京  
「あいちトリエンナーレ 2013 揺れる大地」 愛知県美術館 名古屋  
「アートプログラム青梅 2013 雲をつかむ作品たち」 青梅市立美術館 東京  
「瀬戸内国際芸術祭 2013」 宇野港 岡山  
「第3回東京アートミーティング アートと音楽—共感覚実験劇場」 東京藝術大学大学美術館 東京
- 2014 「横浜トリエンナーレ連携プログラム 東アジアの夢」 BankART NYK 横浜  
「東慶太郎 千崎千恵夫 中村一美 小山穂太郎 宮島達男 野村和弘 白井美穂 長橋秀樹と 榎倉康二」 Space 23°C 東京
- 2015 「Game Theory 白井美穂×鶴見幸代」 nap gallery 東京  
「House Beats—攪拌する家」 explosion tokyo 東京  
「Reflection: 返礼—榎倉康二へ」 秋山画廊 Space 23°C 東京  
「花鳥風月 Flower Bird Wind Moon」 Santa Monica Arena1 ロスアンジェルス
- 2017 「BankART Life V—観光」 BankART NYK 横浜  
「Leaving Language in A Japanese Limousine」 The Metropole Gallery Folkstoneフォークストン イギリス  
「アブラカダブラ絵画展」 市原湖畔美術館 千葉
- 2018 「Physica—自然哲学としての芸術原理 岡崎乾二郎 白井美穂 松浦寿夫」 表参道画廊 東京  
「絵画の現在」 府中市美術館 東京
- 2019 「Art Busan 2019」 Bexco Exhibition Center 釜山  
「Merci Summer」 nap gallery 東京  
「ヘテロトピア 都美セレクトショングループ展 2019」 東京都美術館  
「地球・爆—10人の画家による大共作展」 愛知県美術館
- 2020 「CADAN Showcase 02 Summertime Blues '2020」 CADAN有楽町 東京  
「佐賀町エキジビット・スペース 1983 - 2000 現代美術の定点観測」 群馬県立近代美術館  
「春の雷」 nap gallery 東京
- 2021 「水彩考 視触手考画説」 東京アートミュージアム
- 2022 「オルタナティブ!ー アートとデザインのやわらかな運動 小池一子展」 アーツ千代田3331 東京
- 2024 「BankART Life7 Urban Nesting : 再び都市に棲む」 横浜ディスプレイミュージアム 神奈川  
「越後妻有アートトリエンナーレ2024」 上郷クローブ座 津南町 新潟
- 2025 「35億年間私たちは死んでいない」 ART FACTORY 城南島 Gallery 1045 東京  
「ART OSAKA 2025 Screening Program 〈うつること〉と〈見えること〉— 映像表現をさぐる: 60年代から現代へ」 大阪市中  
央公会堂 大阪



「コレクションによる小企画 没後30年 榎倉康二」東京国立近代美術館  
「大地の芸術祭」上郷クローブ座 津南町 新潟

#### 【パフォーマンス】

- 2009 「explosion K/N/S」 blanClass 横浜  
「hair prayer flame」代官山インスタレーション2009 東京
- 2010 「After Hours」本町実験ギャラリー 横浜  
「City Beats+Live Explosions」BankART NYK 横浜
- 2011 「四月の医者」（『Unknown』展会期中）アユミギャラリー 東京  
「四月の医者」（個展『Magic Carpet Ride』会期中）ギャラリー古今 東京
- 2012 「Progressive Maria 進行形のマリア」早稲田奉仕園スコットホール 東京  
「どこでもない国、ニッポン—Live Explosion 2012 メディウム」東京キネマ倶楽部
- 2013 「Down Under Museum NO TOKYO/ Jabberwocky」（第3回東京アートミーティング アートと音楽—共感覚実験劇場）東京藝術大学大学美術館
- 2014 「minima（白井美穂+沖啓介）」blanClass 横浜
- 2017 「自叙画譜」アブラカダブラ絵画展 市原湖畔美術館 千葉  
「即興のかたち Architecture of Improvisation」SARAVAH東京 東京
- 2020 「100Vのドローイング」春の雷 nap gallery 東京

#### 【受賞】

- 1993 アジアン・カルチュラル・カウンシル 日米芸術家交換プログラム ニューヨーク
- 1996 フリーマンファンデーションフェローシップ パーモント アメリカ
- 1998 ポーラ美術振興財団在外研修員 ニューヨーク
- 2004 チャシャマ・プロジェクトスタジオプログラム ニューヨーク
- 2006 チャシャマ・ビジュアルアーツ・スタジオアワード ニューヨーク
- 2008 UK-Japan 2008 アーティスト・イン・レジデンス サンダーランド イギリス
- 2024 紺綬褒章

#### 【パブリックコレクション】

東京国立近代美術館、東京都現代美術館、千葉市美術館、府中市美術館

#### 【パブリックアート】

岡山県玉野市、新潟県松代町、JR札幌タワー札幌（北海道）、HAT神戸脇の浜アート計画（兵庫）、つくばアートセンター（茨城）、恵比寿ガーデンプレイス（東京）、ファール立川（東京）